

土橋町内会 事例紹介

福祉活動のヒント

区域

川崎市宮前区土橋 1 丁目から 7 丁目

加入世帯

約 6, 000 世帯

町内会HP



問合せ

宮前区役所地域振興課 044-856-3135



認知症カフェ「土橋カフェ」の様子

土橋町内会の活動事例

福祉活動の

ヒントに「福祉活動を頑張りたい」

加入世帯数が約6千世帯と市内でも有数の大規模な町内会・自治会である土橋町内会。

高齢化率が増加の一途をたどり福祉課題が山積の中で、少しでも町内会として地域の福祉課題に向き合い、その対策・対応の検討や福祉活動を支援したいという思いから、試行実施を経て、令和6年5月地域福祉部を立ち上げ、様々な福祉活動を支援しています。

土橋町内会では、これまでも認知症カフェである「土橋カフェ」、子育てサロン「すくすく土橋」、認知症サポーターを地域で養成する「認知症サポーター養成講座」など地域特有の福祉課題を関係者が協力し解決の糸口を見出してきました。

最近では、認知症カフェとは異なる新たな取組として、年齢を問わずに参加が可能な「地域交流サロン土橋」の開始や土橋地区のための福祉情報誌を発行するなど、地域を取り巻く様々な福祉課題に対して、地域の知恵と力を借りながら、一歩ずつ前に進もうとしています。

町内会における福祉の役割って？

独り暮らしの高齢者問題、認知症の方とその家族への対応、子育ての悩みなど、これまで民生委員児童委員や一部の専門家に頼ってきた部分

地域社会でできることを少しずつ

町内会として、様々な福祉活動の支援を行う

地域の絆を強固に、

いつまでも暮らしやすいまち「土橋」を目指して

背景

- 福祉の取組を民生委員児童委員や一部の専門家に頼ってきた実情
- 町内会として地域の福祉課題に向き合い、対応の検討

取組

- 認知症サポーター養成講座、認知症カフェ等福祉活動を支援
- 土橋地区のための福祉情報紙を発行

地域を取り巻く福祉課題に対して皆で知恵を出し合い、解決の糸口を見出す

地域福祉部を立ち上げ、福祉活動を支援、助け合いの精神に満ちたまち「土橋」へ

01

「地域福祉の取組その1」

認知症カフェのきっかけ

テレビ番組において、認知症に関するテーマで宮前区が取り上げられ、土橋町内会のメンバーも参加したことをきっかけに「認知症徘徊者への声かけ訓練」を実施。

この取組が町内会の認知症への関心度を高めることになり、地域包括ケア連絡会議において、町内会、レストア川崎地域包括支援センター、民生委員児童委員、区の担当者等が地域でサポートが必要な方への支援方法を議論していく中で、平成25年、認知症カフェ「土橋カフェ」の開始に繋がる。

憩いの場

土橋カフェでは、講演会、発表会、歌唱、健康増進体操など地域に根差した多くの取組を実施することで、毎月70人ほどの参加があるという。

また、運営には町内会だけでなく、民生委員児童委員やその経験者の他、認知症専門医、弁護士、地域包括支援センター員、ケアマネジャー等と連携することで、認知症者やその家族の悩み相談の場となるとともに、宮前区初の「チームオレンジ」に認定され、活気あふれる地域の憩いの場にもなっている。

02

「地域福祉の取組その2」

認知症サポーター養成講座

たとえ認知症になっても、周囲の理解と支えによって住み慣れた地域で暮らし続けることができるように。

土橋町内会では、認知症サポーターを地域で養成する取組「認知症サポーター養成講座」を年2回、町内会が主催し、地域包括支援センター、民生委員児童委員とも連携して実施している。

講座は、認知症専門医等を講師に招き、認知症に関する理解を深め、認知症の方や家族を温かく見守る応援者になってもらうためのものとなっている。

福祉情報誌の発行

地域福祉部を立ち上げ、福祉の取組を支援する体制を整備したのは良いが、掲示板やホームページを見ない、あるいは見られない方に活動の内容が伝わらないと意味がない。

そのため、土橋地区の福祉情報を発信する情報誌「つちはしのふくし」を年4回発行。町内会活動を知らない人も多いため、まずは知ってもらい、関心をもってほしい。少しでも家に閉じこもりがちな高齢者の方々が外に出るきっかけに。

03

「地域福祉の取組その3」

子育てサロン

土橋町内会が、民生委員児童委員、保育士、ボランティア等とともに地域での子育てを支援する子育てサロン「すくすく土橋」。現在親子合わせて約30人が毎月会館に遊びに来ており、子どもの身体測定や親のリラックス体操だけでなく、地域の子育て情報交換の場にもなっている。また、土橋保育園が近所にあることで、連携や相談がしやすいのも特色。

運営スタッフの高齢化が進む中、継続的な運営に向けて引き続き試行錯誤を続けていく。

新たな集いの場

認知症カフェとは異なる新たな取組「地域交流サロン土橋」を令和7年4月から開始。年齢を問わずに参加が可能で、自由な会話の中から福祉課題や新たな催し物の発掘をすることなどを主旨に開催。

当日は若い方も様子を覗きにきたという「地域交流サロン」。約20名が集まり世間話に花を咲かせる。あまり多世代が交流できる機会がない中、土橋の未来のために今後何をしていく必要があるのか、そういったことを語り合える場を目指す。